

琉球大学学術リポジトリ

平成28

年度「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」結果

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 裕介, 西本, 裕輝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41108

平成 28 年度「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」結果

藤本 裕介（グローバル教育支援機構開発室 研究員）

西本 裕輝（グローバル教育支援機構 授業支援部門長）

背景・目的

平成 26 年度より、「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」では、その内容に URGCC 学習教育目標に関する質問項目が新設され、永田ら（2015）においてその調査結果が示されている。本稿では、2016 年度に実施したアンケートを基に、科目系列ごとに URGCC 学習教育目標の達成度を示している。また、URGCC 学習教育目標の達成度は過去に示されているものの、現在に至るまで、他の質問項目については結果が示されておらず、全体的な傾向が示されていない。そこで、本稿では全体的な結果を示す。

方法

1 調査の対象・実施

本調査の対象者は、2016 年度に共通教育等科目を受講した全ての学生である。調査の実施は、前学期と後学期にそれぞれ 1 回行い、各講義の最終回に集団一斉方式により実施された。なお、調査時には、質問項目の記載された用紙と自記式のマークシートが配布された。本稿では前学期と後学期に回収したアンケート全てをまとめ、分析を行っている。

2 質問項目の構成

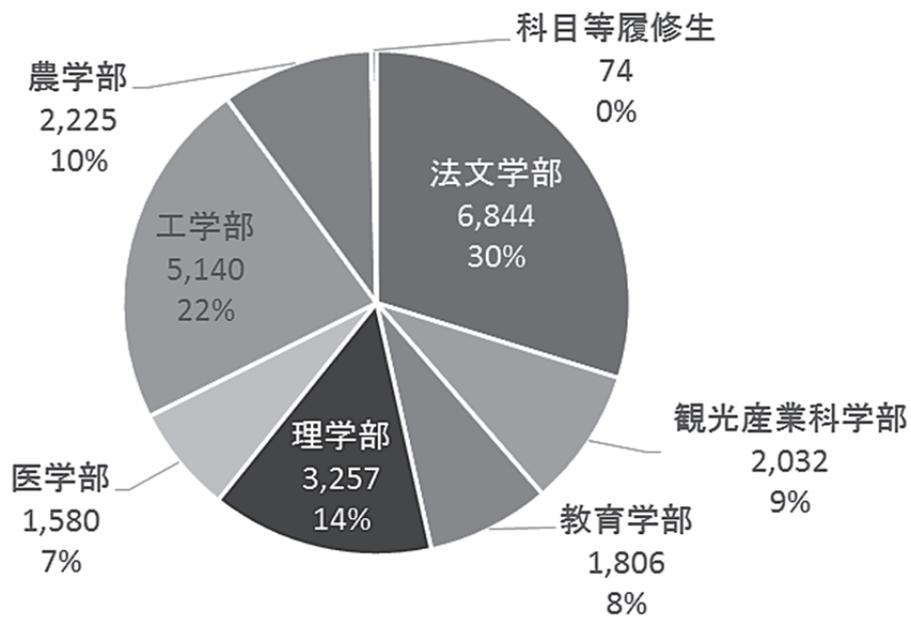
質問項目は、授業全般に関する質問（計 21 問）と URGCC 学習教育目標に関する質問（計 14 問）の大きく 2 つである。

3 回答率

共通教育等科目の受講者数は 35,668 名、回答者数は 23,403 名、回答率は 65.61%であった（Table 1）。また、調査対象者について、所属学部は Figure 1 の通りであり、全学的な実施となった。

(Table 1) 授業評価アンケートの回答率

科目区分	受講者数	回答者数	回答率(%)
人文系科目	5,378	3,125	58.11%
社会系科目	3,966	2,539	64.02%
自然系科目	3,095	2,285	73.83%
健康運動系科目	2,448	1,242	50.74%
総合科目	2,314	1,233	53.28%
琉大特色科目	2,434	1,628	66.89%
情報関係科目	1,614	1,023	63.38%
外国語科目	7,624	5,862	76.89%
専門基礎科目	6,044	3,840	63.53%
日本語・日本事情	751	626	83.36%
合計	35,668	23,403	65.61%

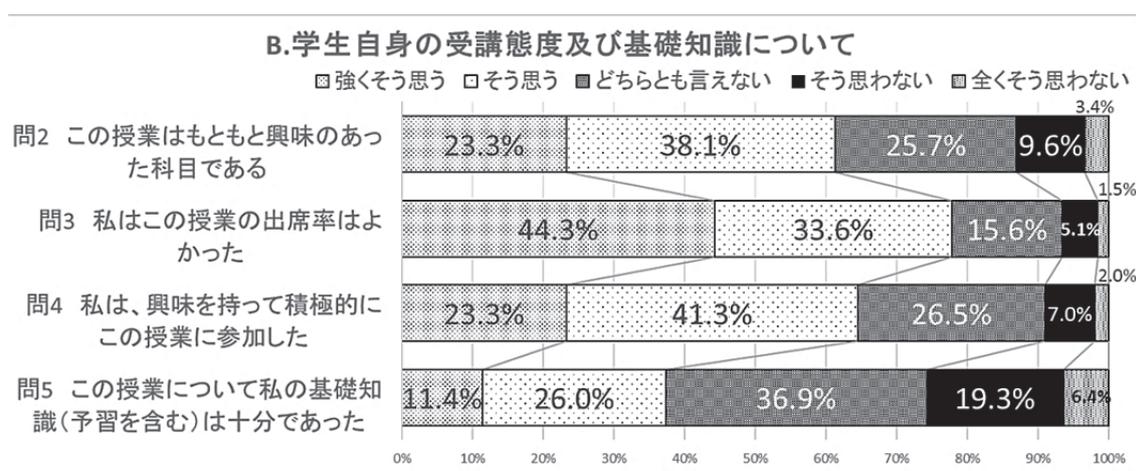


(Figure 1) 調査対象者の所属学部

結果と分析①（授業全般に関する質問）

1 学生自身の受講態度及び基礎知識について

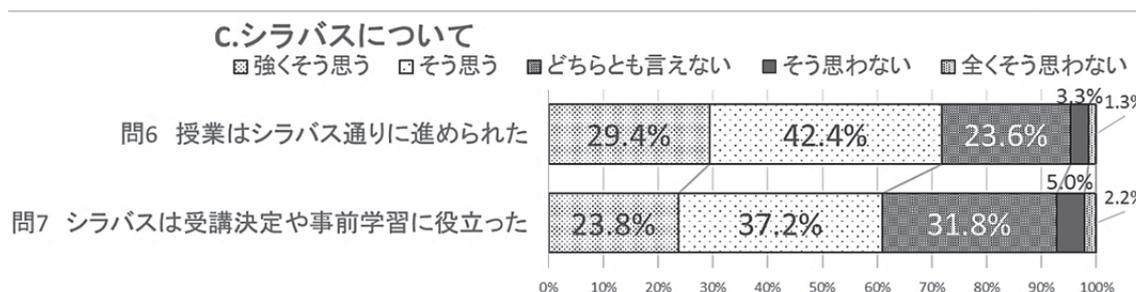
学生自身の受講態度及び基礎知識については、全体的に肯定的な回答が多く見られた（Figure 2）。ただし、詳細を見ると、「問5 この授業について私の基礎知識（予習を含む）は十分であった」の項目では、「強くそう思う」が 11.4%、「そう思う」が 26.0%と肯定的な回答の割合が 40%未満と他の項目よりも低かった。



(Figure 2) 学生自身の受講態度及び基礎知識に関する回答結果

2 シラバスについて

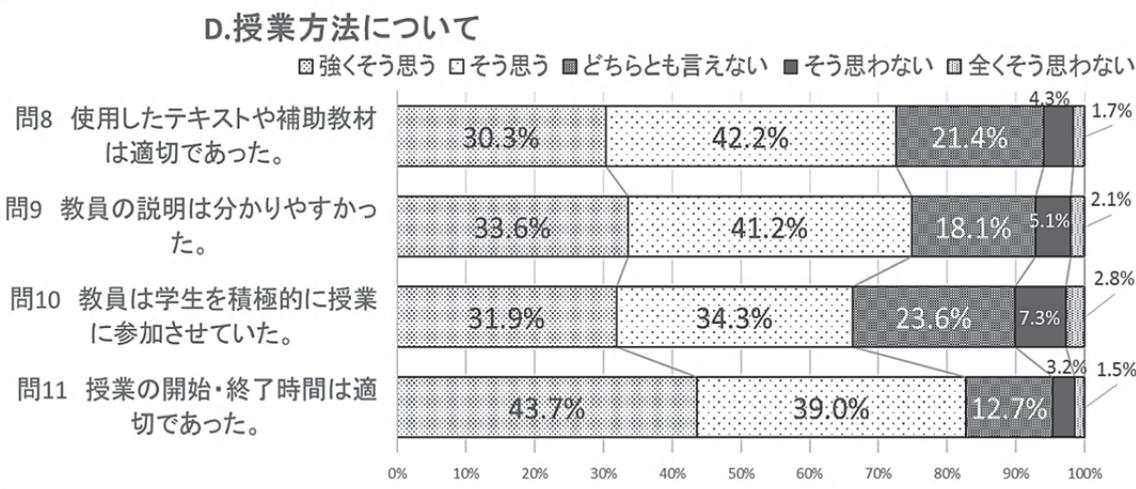
シラバスについては、60%以上が肯定的な回答を示した（Figure 3）。



(Figure 3) シラバスについての回答結果

3 授業方法について

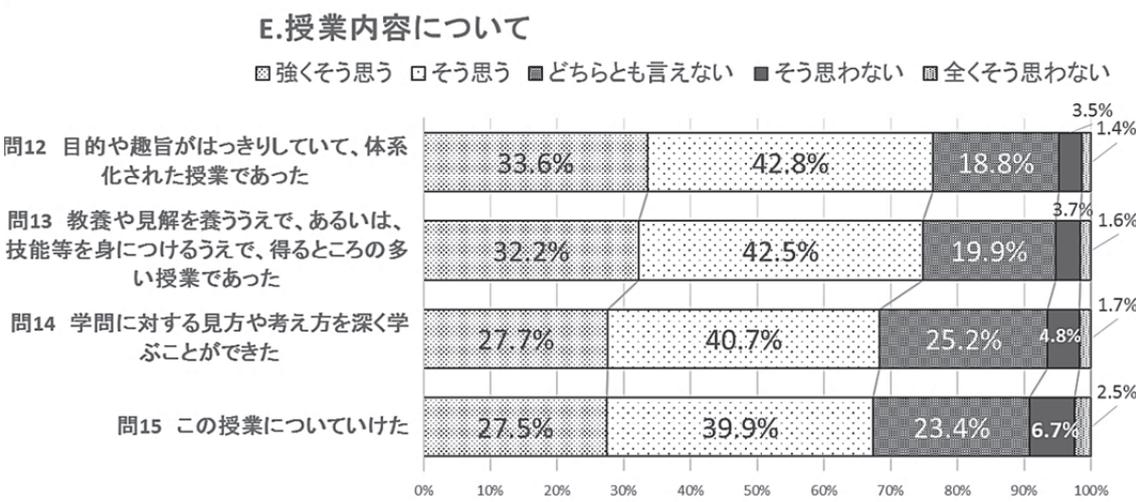
授業方法について、全ての質問において、65%以上が肯定的な回答を示した (Figure 4)。



(Figure 4) 授業方法についての回答結果

4 授業の内容について

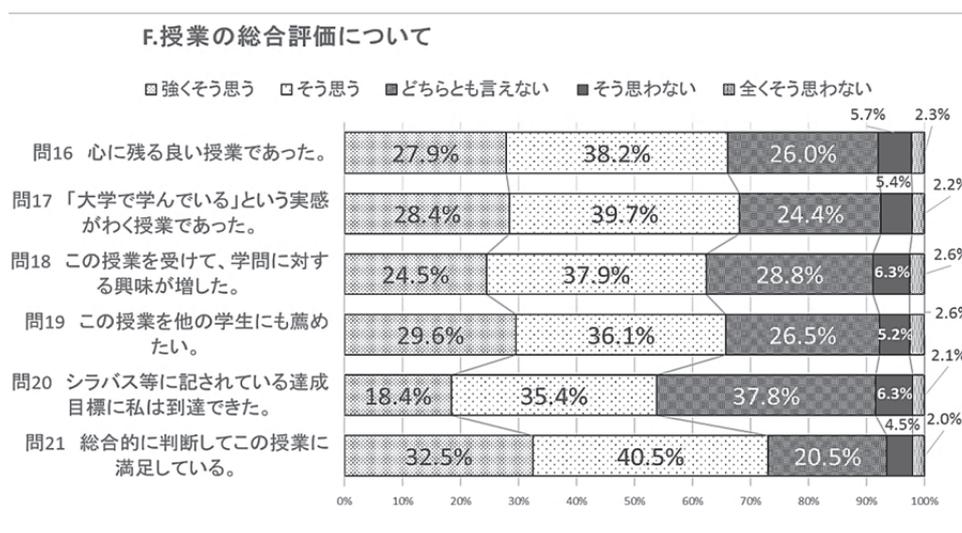
授業の内容について、全ての質問において、67%以上が肯定的な内容の回答を示した (Figure 5)。しかし、「問 15 この授業についていけない」の項目では、6.7%が「そう思わない」、2.5%が「全くそう思わない」と回答し、回答者のうち約 10 人に 1 人が授業について行けていない可能性が示唆された。



(Figure 5) 授業内容についての回答結果

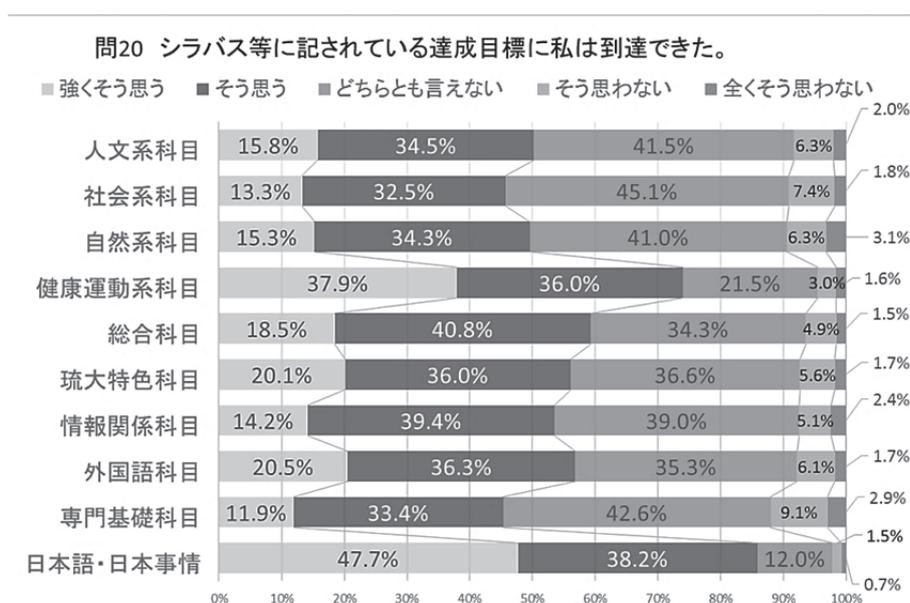
5 授業の総合評価について

授業の総合評価については、全ての質問で肯定的な回答が53%を超えていた(Figure 6)。一方、「問20 シラバス等に記されている目標達成に私は到達できた」については、37.8%が「どちらとも言えない」と回答し、否定的な回答が8.4%と、4割以上もの学生が中性的または否定的な回答を示した。



(Figure 6) 授業の総合評価について

さらに「問20 シラバス等に記されている目標達成に私は到達できた」の結果を科目別に見てみると、「健康運動系科目」と「日本語・日本事情」については、肯定的な回答の割合は、それぞれ73.9%、85.9%と高かった(Figure 7)。



(Figure 7) 問20の科目区別の回答結果

結果と分析② (URGCC 学習教育目標に関する質問)

はじめに、URGCC 学習教育目標に関する質問は、目標に対する学生の「自己評価」と、「授業への評価」がそれぞれ 1 項目設定されている。前者は、学生自身がその授業を通して、URGCC 学習教育目標に関する行動ができるようになったかどうかを自己評価する項目である (Figure 8)。後者は、授業が URGCC 学習教育目標に関する行動ができるようになることを意図したものであったかを、学生に評価してもらう項目である。自己評価と授業への評価との相関を調べると、中程度または強い相関が検出され、得点の分布も同じような傾向を示すことから、本稿では自己評価に的を絞り結果を報告する。これは、授業への評価よりも、科目履修がどのように学生の自己評価に影響したかがより重要だと思われるためである。

また、分析方法については、回答結果を分析するにあたり回答を得点化し、さらに得点を百分率に換算した。回答の得点化については、「回答 1: 全くそう思わない」を 0 点とし、「回答 2: そう思わない」を 1 点、「回答 3: どちらとも言えない」を 2 点、「回答 4: そう思う」を 3 点、「回答 5: 強くそう思う」を 4 点とした。例えば、「そう思う」と回答した場合は、計算式「3 点 / 4 点 × 100」より、75% という数値を導くことができる。得点率に換算すると「0%: 全くそう思わない」「25%: そう思わない」「50%: どちらとも言えない」「75%: そう思う」「100%: 強くそう思う」となる。

URGCC 学習教育目標に関する質問 (例)	
(選択肢 1: 全くそう思わない 2: そう思わない 3: どちらとも言えない 4: そう思う 5: 強くそう思う)	
自律性	
問24.	この授業を通して、以前に比べ、自分自身が掲げる目標に向けて、自律的に学習し行動することができるようになった。
社会性	
問26.	この授業を通して、以前に比べ、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになった。

(Figure 8) URGCC 学習教育目標の自己評価における質問項目例

1 自己評価と授業への評価との関係

共通教育等科目には、各科目系列に対応する URGCC 学習教育目標として、「原則として含める目標」と「含めることを推奨する目標」が設定されている (Table 2)。学生は、講義を履修することで学習教育目標を身に付けることができるとされている。本稿では、この各科目系列と URGCC 学習教育目標との対応表を基に結果を示していく。

(Table 2) 科目区分ごとの学習教育目標

科目区分	原則として含める目標	含めることを推奨する目標
人文系科目	社会性	自律性 問題解決力
社会系科目	社会性	自律性 問題解決力
自然系科目	問題解決力	自律性
健康運動系科目	社会性	自律性
総合科目	問題解決力	自律性 社会性
琉大特色科目	地域・国際性	自律性 問題解決力
情報関係科目	情報リテラシー 問題解決力	自律性 コミュニケーション・スキル
外国語科目	地域・国際性 コミュニケーション・スキル	自律性 情報リテラシー
専門基礎科目	問題解決力	自律性 専門性
日本語・日本事情	地域・国際性 コミュニケーション・スキル	自律性

2 共通教育等科目の科目区分全体の URGCC 学習教育目標得点率について

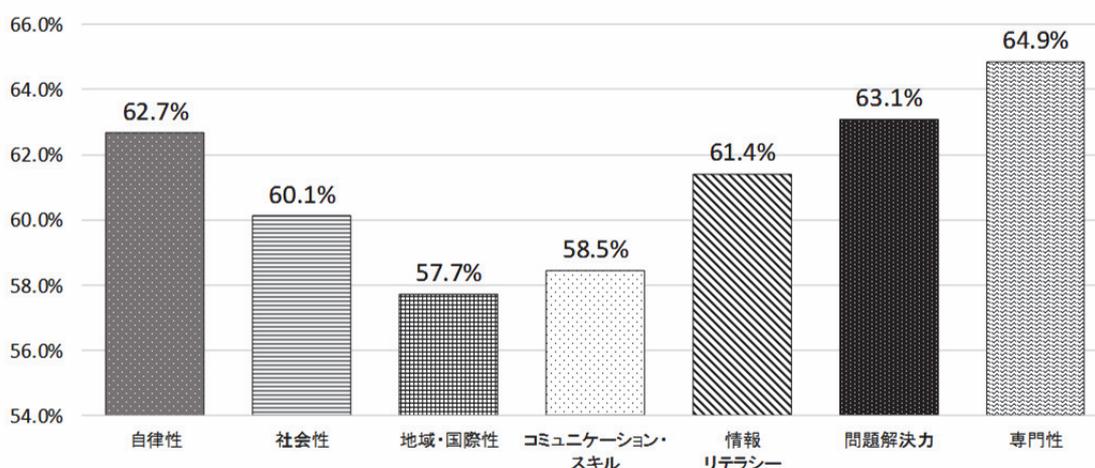
各科目系列について結果を示す前に、全ての科目を通して見た場合の URGCC 学習教育目標の得点率について下記に示す (Table 3 & Figure 9)。

平均を見ると、「地域・国際性」が 57.7%と最も低い値を示し、「専門性」が 64.9%と最も高い値を示している。グラフで見ると、地域・国際性とコミュニケーション・スキルがやや低く見受けられる。この結果より、どの学習目標も平均得点率が 65%未満であることから、学生は目標に対して達成できたと「思う (75%)」と「どちらでもない (50%)」の中間で評価する傾向にある。中でも、「地域・国際性」「コミュニケーション・スキル」は 60%を超えておらず、この2つに関する評価としては「どちらとも言えない」に近い。

(Table 3) 共通教育等科目全体における 2016 年度 URGCC 学習教育目標得点率

URGCC学習教育目標	度数	平均	標準偏差
自律性	21763	62.7%	23.01
社会性	21831	60.1%	24.21
地域・国際性	21847	57.7%	25.35
コミュニケーション・スキル	21786	58.5%	26.26
情報リテラシー	21771	61.4%	23.83
問題解決力	21723	63.1%	23.20
専門性	21563	64.9%	23.62

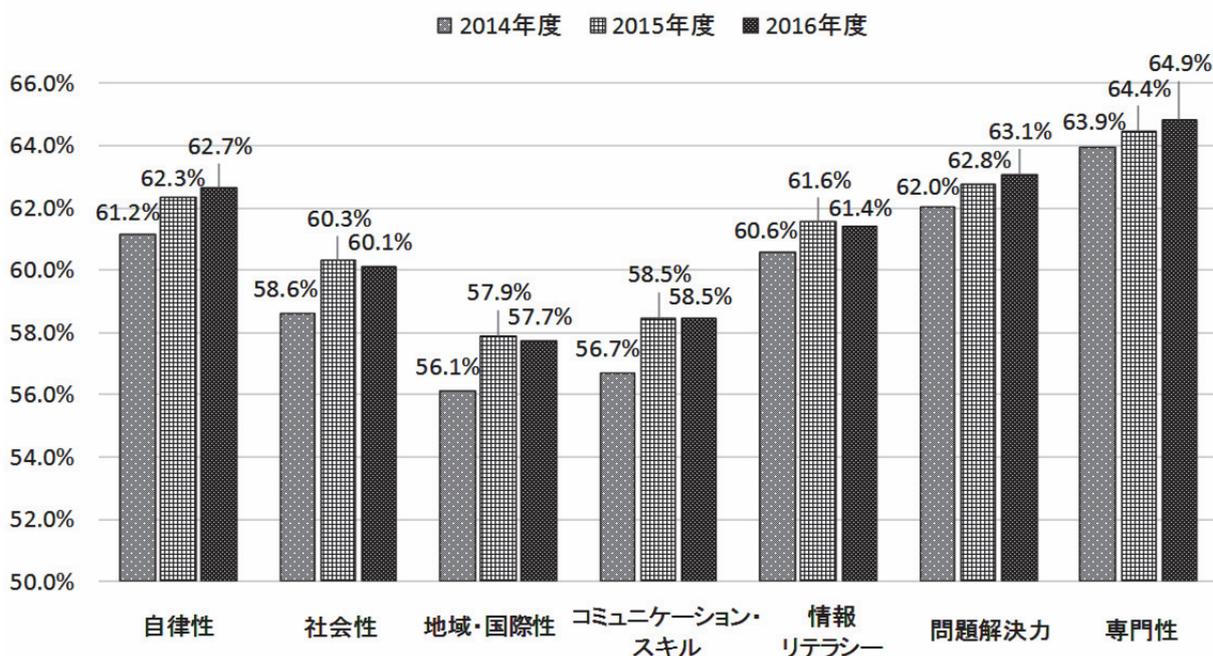
備考. 得点率と回答内容の対応関係は「0%:全くそう思わない」「25%:そう思わない」「50%:どちらとも言えない」「75%:そう思う」「100%:強くそう思う」である。



(Figure 9) 共通教育等科目全体における 2016 年度 URGCC 学習教育目標得点率の平均

3 年度比較について

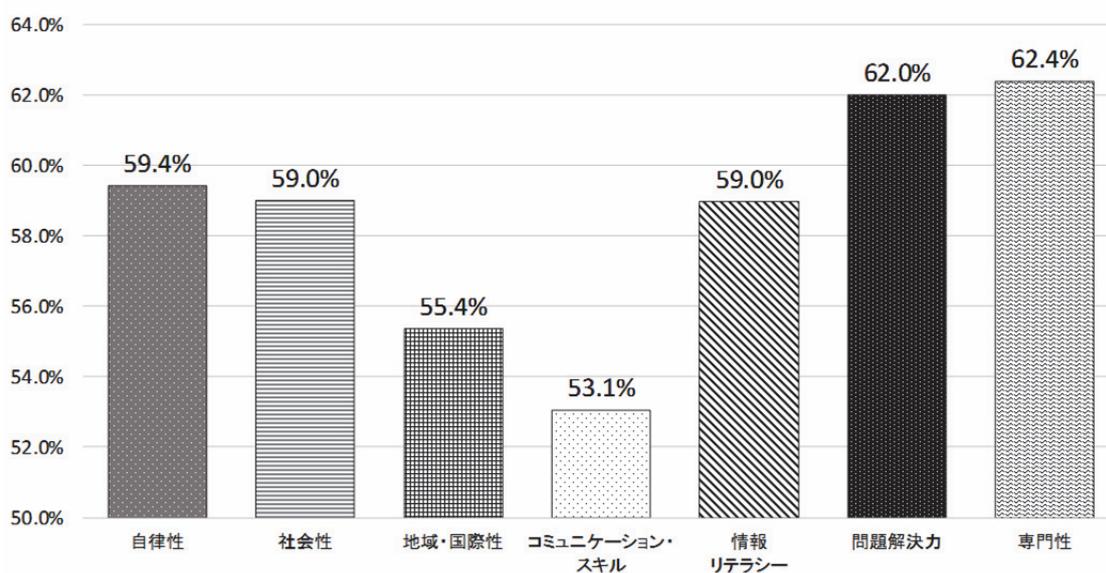
URGCC 学習教育目標得点率を 2014 年度から 2016 年度まで年度ごとに比較すると、2014 年度から 2016 年度にかけて、全ての目標について小さな増減は見られるものの、2% 未満の変化に留まっている (Figure 10)。つまり、3 つの年度でさほど差はなく、似た傾向を示している。また、「地域・国際性」、「コミュニケーション・スキル」の得点率は、6 割未満と他の学習教育目標よりも低い数値となっている。これは全年度で似た傾向を示している。



(Figure 10) URGCC 学習教育目標の得点率平均の年度間比較

4 人文系科目について

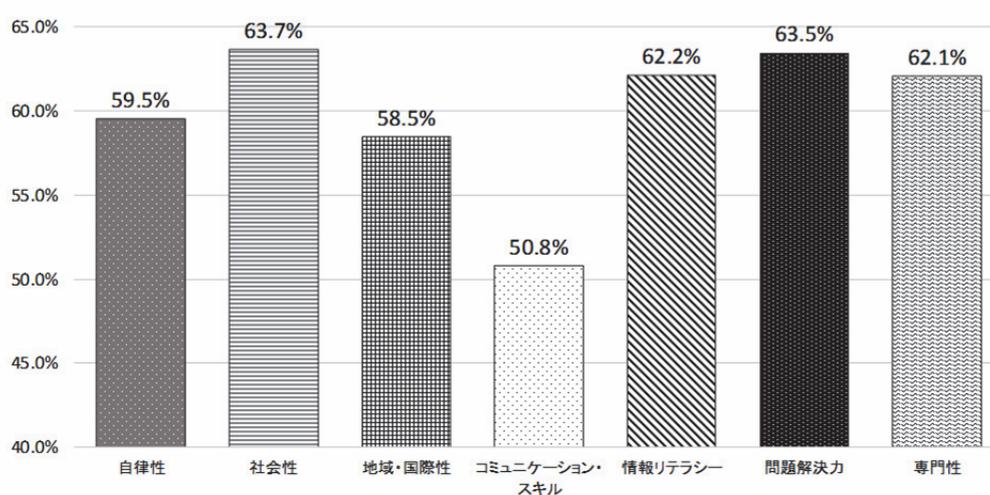
人文系科目は、本学の共通教育の授業科目であり教養領域の一つである。系内の科目は、7 つの URGCC 学習教育目標のうち「社会性」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「問題解決力」を含めることを推奨されている。下記は、人文系科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 11)。ここでは、社会性が 59.0%に留まっており、社会性よりも「問題解決力」や「専門性」が約 3%上回っている。



(Figure 11) 「人文系科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

5 社会系科目について

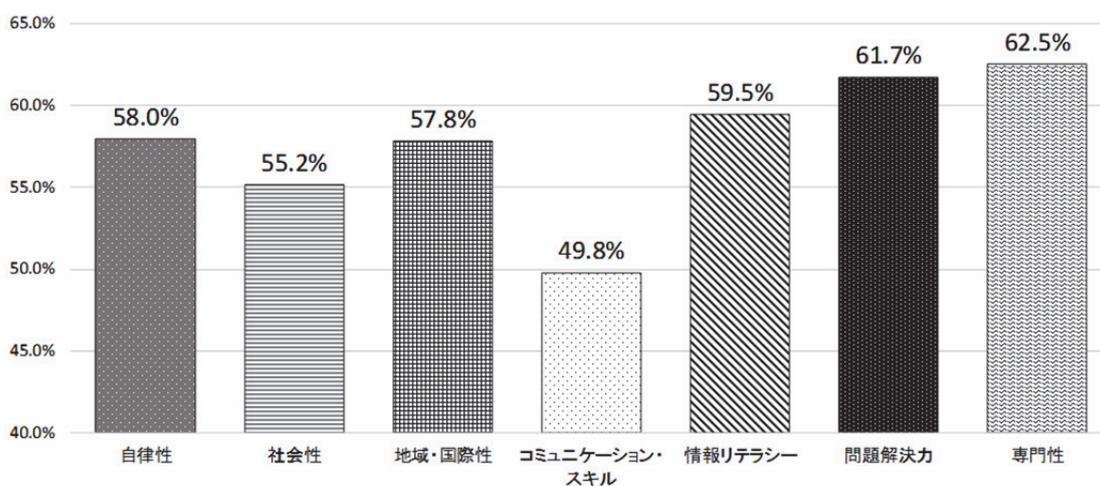
この系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「社会性」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「問題解決力」を含めることを推奨されている。下記は社会系科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 12)。これを見ると、社会性が 63.7%と最も高い。その他、情報リテラシーや問題解決力、専門性も 60%以上の割合を示している。



(Figure 12) 「社会系科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

6 自然系科目について

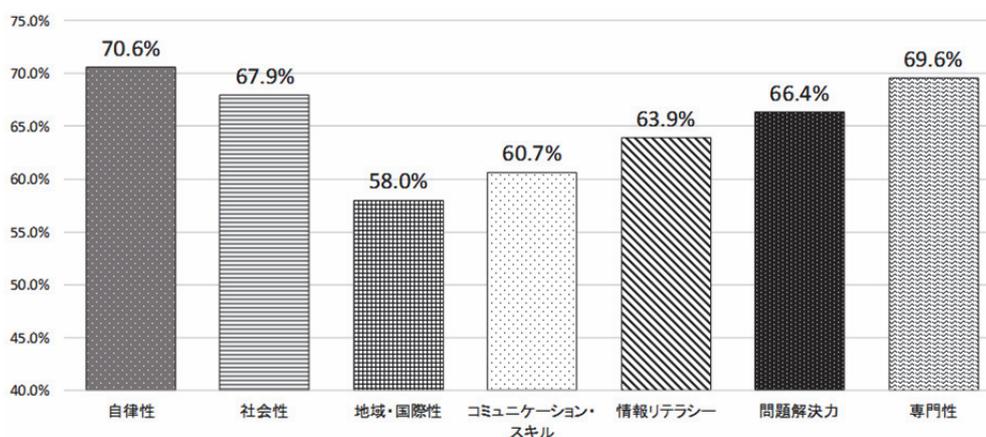
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「問題解決力」を含めることを必須とされており、その他「自律性」を含めることを推奨されている。下記は自然系科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 13)。これを見ると、専門性が 62.5%と最も高く、次いで問題解決力が 61.7%と 2 番目に高い割合を示している。自律性については、58.0%と 6 割未満であった。



(Figure 13) 「自然系科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

7 健康運動系科目について

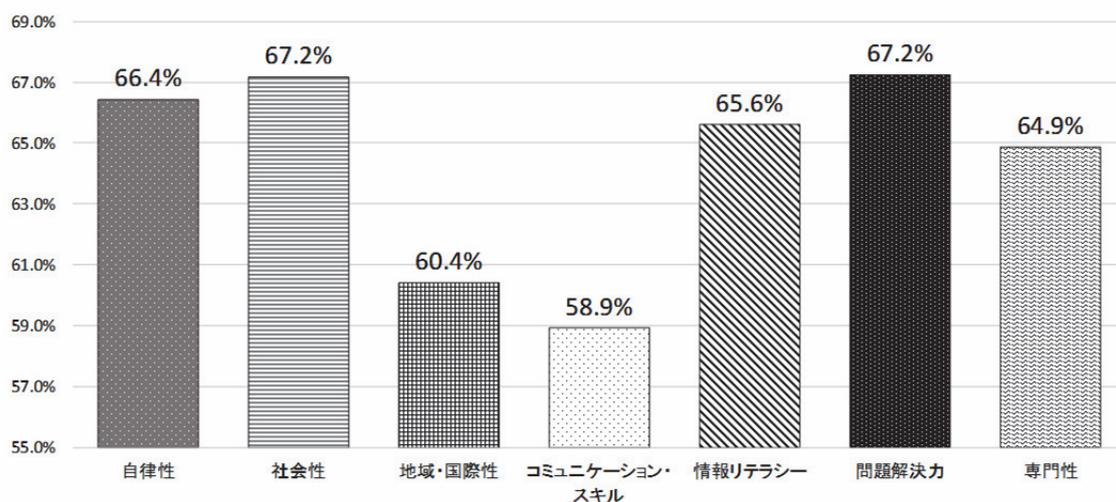
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「社会性」を含めることを必須とされており、その他「自律性」を含めることを推奨されている。下記は健康運動系科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 14)。これを見ると、地域・国際性を除く全ての学習教育目標が 60%を超えている。特に、自律性が 70.6%と高く、専門性や社会性、問題解決力も 65%以上と高い割合を占めている。



(Figure 14) 「健康運動系科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

8 総合科目について

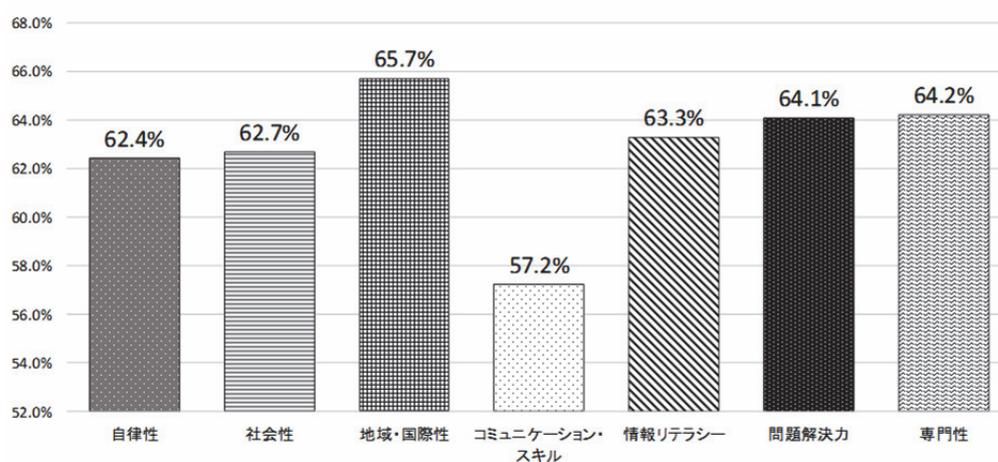
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「問題解決力」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「社会性」を含めることを推奨されている。下記は総合科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 15)。これを見ると、問題解決力と社会性が 67.2%であり、自律性が 66.4%、情報リテラシーが 65.6%であった。



(Figure 15) 「総合科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

9 琉大特色科目について

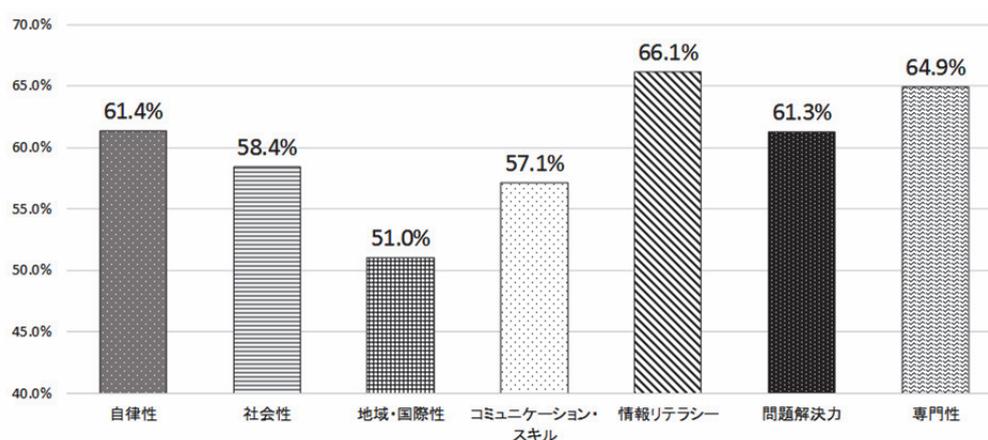
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「地域・国際性」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「問題解決力」を含めることを推奨されている。下記は総合科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 16)。これを見ると、地域・国際性が 65.7%と最も高く、コミュニケーション・スキルを除く学習教育目標全てが 60%を超えている。



(Figure 16) 「琉大特色科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

10 情報関係科目について

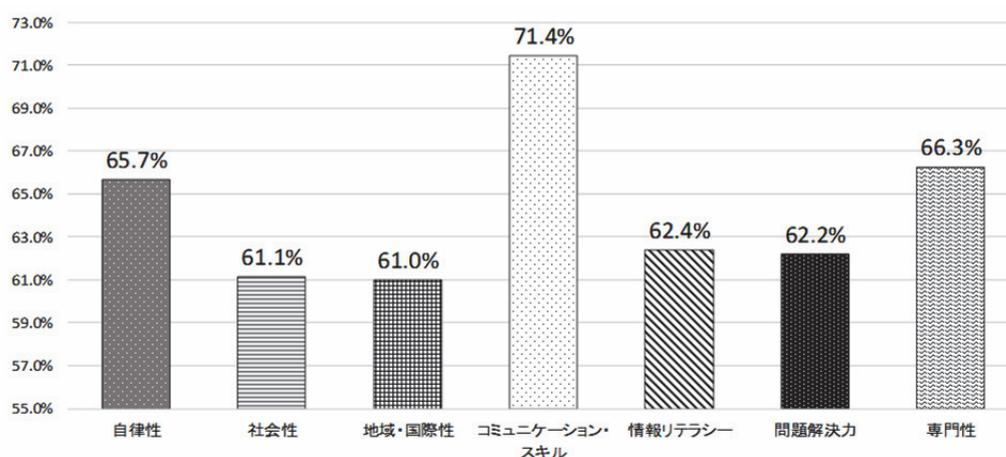
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「情報リテラシー」「問題解決力」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「コミュニケーション・スキル」を含めることを推奨されている。下記は情報関係科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 17)。これを見ると、情報リテラシーが 66.1%と最も高く、専門性、自律性、問題解決力が 60%以上を示している。しかし、問題解決力が 61.3%と情報リテラシーや専門性に比べやや低い値を示している。



(Figure 17) 「情報関係科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

11 外国語科目について

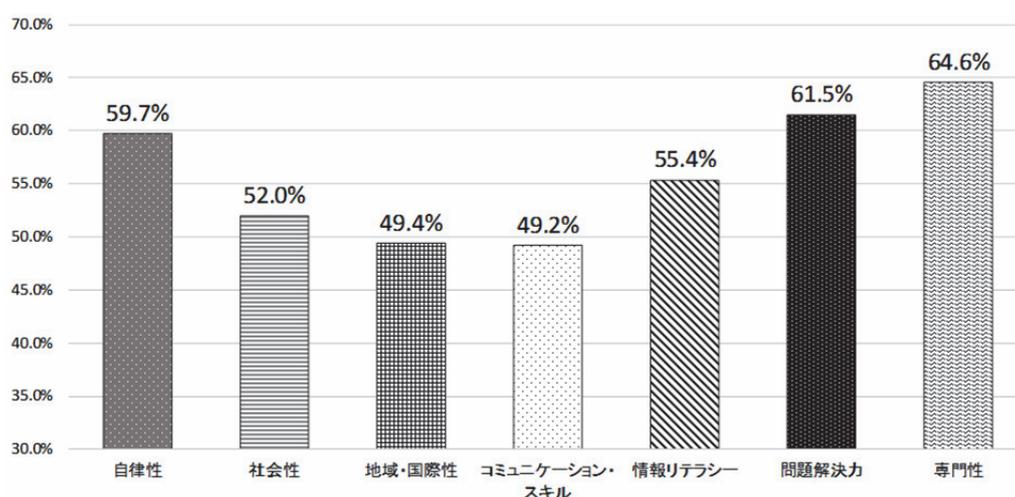
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「地域・国際性」「コミュニケーション・スキル」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「情報リテラシー」を含めることを推奨されている。下記は外国語科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 18)。これを見ると、コミュニケーション・スキルが 71.4%と高い割合を示しているが、地域・国際性が 61.0%と他の学習教育目標よりも低い。



(Figure 18) 「外国語科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

1.2 専門基礎科目（先修科目・転換科目）について

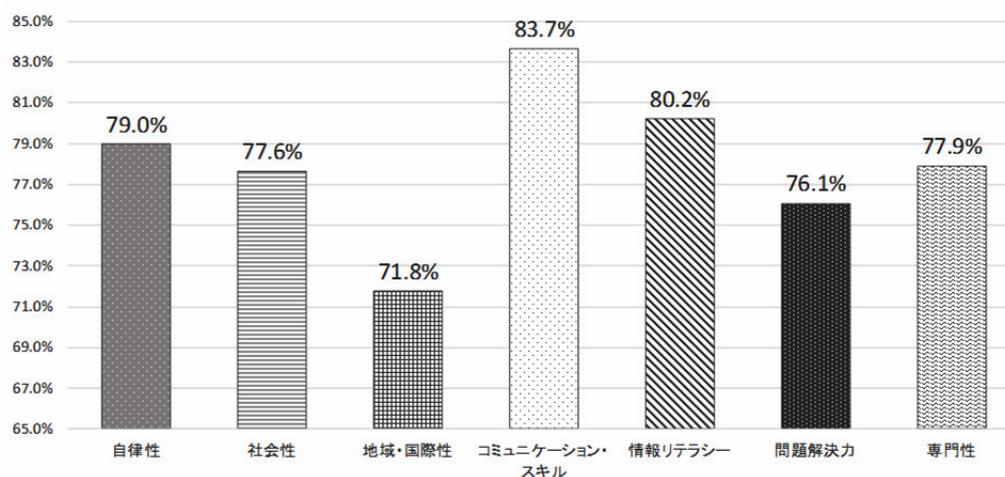
系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「問題解決力」を含めることを必須とされており、その他「自律性」「専門性」を含めることを推奨されている。下記は専門基礎科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 19)。これを見ると、専門性が 64.6%、問題解決力が 61.5%と 6 割を超えている。



(Figure 19) 「専門基礎科目」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

1.3 日本語・日本事情について

系内の科目は、7つの URGCC 学習教育目標のうち「地域・国際性」「コミュニケーション・スキル」を含めることを必須とされており、その他「自律性」を含めることを推奨されている。下記は日本語・日本事情の科目を履修した学生の URGCC 学習教育目標に関する自己評価の結果である (Figure 20)。これを見ると、全体的に 70%を超えており、中でもコミュニケーション・スキル、情報リテラシーが 80%を超えている。



(Figure 20) 「日本語・日本事情」における URGCC 学習教育目標得点率の平均

考察

本アンケートは、平成 28 年度の前学期と後学期に共通教育等科目を対象に実施した。調査対象者は共通教育等科目を履修している学生であり、授業全般に関する質問と URGCC 学習教育目標に関する質問に答えてもらった。その結果、学生の授業に対する評価や URGCC 学習教育目標の達成度に関する自己評価等について把握することができた。

授業全般に関する質問への回答結果について、全体的に肯定的な回答が多く見られた。このことから、学生は共通教育等科目に関して、肯定的な評価を示す傾向にあることが示唆された。ただし、「どちらとも言えない」という回答も多く、肯定でも否定でもない評価を示す学生も多いと言える。学生自身の受講態度及び基礎知識についての質問では、「問 5 この授業について私の基礎知識（予習を含む）は十分であった」の項目で肯定的な回答の割合が 40%未満とやや少なかった。これについては、参考図書・文献のような情報リソースの提示や授業外学習の指導等を通して基礎知識の涵養を図ることが望まれる。これは、学習効果を高める上で重要である。

次に、シラバスに関する質問への回答について、「授業はシラバス通りに進められた」や「シラバスは受講決定や事前学習に役立った」の質問に対し 60%以上が肯定的な回答を示した。このことから、シラバス上で授業計画を示すことや、シラバスの記載内容を充実させることが学生の利益につながると考えられる。シラバスが受講決定や事前学習に役立ったと回答する者もいることから、シラバスが授業外学習に役立っていると言える。ただし、問 7 の質問の仕方だと 2 つ以上の意味内容を含んでいる質問（ダブルバレル質問）となっていたため、この質問内容を見直す必要がある。

授業方法については、「教員の説明は分かりやすかった」や「教員は学生を積極的に授業に参加させていた」などの質問に対して 65%以上が肯定的な回答を示した。この結果は、学生の授業への積極的な参加を促すことや、授業内容を学生に理解してもらえよう分かりやすくするなど、教員による工夫・努力によると言える。続いて、授業内容については、全ての質問で 67%以上の学生が肯定的な回答を示した。しかし、「問 15 この授業についていけない」の項目では約 10 人に 1 人が「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答していた。このことについて、授業について行けていないと感じる学生に対し、大学側がどこまでサポートするのかその際限は無いが、少なくとも、オフィスアワーの活用を促すなど、教員によるアプローチは可能だと考えられる。ただし、授業の提供者である教員だけでなく、授業を受ける学生の学習への取組みが何よりも重要となる。

次に、授業の総合評価について、全ての質問において肯定的な回答が 53%を超えていたものの、「問 20 シラバス等に記されている目標達成に私は到達できた」については 4 割以上の学生が中性的または否定的な回答を示した。これについて、本来であれば学生自身が目標を達成できたと感じることが好ましいが、少なくとも学生が授業の達成目標に近づけたと実感が持てるよう、到達すべき水準を具体的に明らかにすることで目標を視覚化し、

意識しやすくすることも一つの案である。ただし、目標の達成に向け何をすべきかを学生自身が考え、行動に落とし込んでいくことが重要だと考えられる。

続いて、URGCC 学習教育目標に関する質問への回答結果を見ると、2014 年度から 2016 年度にかけて URGCC 学習教育目標の得点率は似た傾向を示した。年度を超えて似た数値を示すことから、自己評価における本学の学生の傾向と見なすことができる。中でも特に、「地域・国際性」「コミュニケーション・スキル」の得点率が各年度で 60%未満となっており、他の目標よりも低い。そのため、共通教育等科目全体でこの 2 つの目標の強化に向け検討することが望まれる。今現在、URGCC 学習教育目標をどこまで身に付けると良いのか、調査結果と照らし合わせた数値基準は設けられていないが、2016 年度に作成された「URGCC メタ・ルーブリック」では達成度をレベルごとに示している。

各科目系列の URGCC 学習教育目標について、まず、人文系科目については、「社会性」を身につけることが必須の目標であるが、社会性が 59.0%と十分な値ではない。今後、社会性を身につけるには何が必要であるのか、その中身とアプローチ等を検討することが求められる。

社会系科目については、「社会性」が必須目標であるが、社会性の得点率が 63.7%と他の目標よりも高かった。この結果より、社会系科目は「社会性」を身につける上で有益な科目となっていることが示唆される。

自然系科目については、「問題解決力」が必須目標であり、得点率が 61.7%と他の目標と比べ 2 番目に高いことから、問題解決力を養成する科目として働いていることが示唆される。また、「専門性」が 62.5%と最も高かったが、自然系科目は専門性を身につける上で有益である可能性がある。

健康運動系科目については、必須目標の「社会性」だけでなく、「自律性」「専門性」も目標の中では高い値を示した。従って、自律性や専門性についても身につける上で有益な科目である可能性がある。

総合科目については、「問題解決力」が必須目標であるが、結果より、問題解決力だけでなく、自律性や社会性を身につけることもできる科目であることが示唆された。

琉大特色科目については、「地域・国際性」が必須目標である。全体的に地域・国際性の得点率は他の目標に比べ低いのにに対し、この科目系列では地域・国際性が 65.7%と最も高かった。このことから、地域・国際性を身につける上で琉大特色科目は重要である。

他にも、情報関係科目や専門基礎科目ではともに「問題解決力」が必須目標であるが、情報関係科目において、問題解決力が 62%と今後とも強化していくことが求められる。

また、外国語科目と日本語・日本事情については、どちらも「地域・国際性」「コミュニケーション・スキル」が必須目標であるが、コミュニケーション・スキルの得点率が最も高く、地域・国際性の値が最も低くなっている。この 2 つの科目系列は、琉大特色科目に加え、「地域・国際性」を身につける上で重要な科目であり、地域・国際性を授業に積極的に取り入れていくことが望まれる。

今後の課題と展望

本稿は、第一に、共通教育等科目における授業評価アンケートの結果を全体的に把握し結果を示した。アンケートの結果を示す中で、授業全般に関する質問においては、自己に対する評価として肯定的な回答が多かった。ただし、「問 15 授業についていけない」では、約 10 人に 1 人が「そう思わない」と回答しているように、項目によっては肯定的な回答が多く見られていても対策を講じる必要のあるものも見られた。また、「問 20 シラバス等に記されている達成目標に私は到達できた」についても、4 割以上もの学生が中性的または否定的な回答を示しているように、学生が授業を履修する中で目標に向けて取り組めるよう促していくことが求められている。しかし、授業の時間は限られたものであり限度があるため、授業時間外の有効的な活用が求められる。授業についていけないと感じている学生への対策についていくつか可能性を示すとすると、授業における事前・事後学習内容の具体的な整備や、学生にとって有益となるようなシラバス作成および充実化などが考えられる。その他、学生の相談窓口としてのオフィスアワーや学習サポートルーム、学部・学科に配置されたティーチングアシスタント、学生相談室の利用などが挙げられる。しかし、学習サポート体制は整えているものの、学生による相談窓口の利用は多くはなく、授業についていけないと感じている学生がいるものの窓口を利用するまでには至っていない可能性がある。今後、学生と窓口を結びつけ学生の利用を推奨するためにも、教員による情報提供等は効果が期待される。

URGCC 導入から平成 28 年度で 5 年目を迎えるが、これまでの取組を継続しつつ、質問項目の見直しや URGCC 学習教育目標そのものについて現状に照らし合わせた修正を行うことが必要となってきた。これについては、授業評価アンケートについても項目の見直しが望まれ、URGCC 学習教育目標については、全学的な委員会を通して見直しが今後進められる。

最後に、本稿はあくまで授業評価アンケートの結果をまとめ数値化し示したものである。考察内容は一つの見解に過ぎないが、本稿が教育改善や調査分析への一助となれば幸いである。

引用文献

永田祐矢・西本裕輝 2015 平成 26 年度「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」の概況－URGCC 学習教育目標に対応した新項目について－ 琉球大学大学教育センター報 第 18 号, 51-78

付録資料

「共通教育等科目授業評価アンケート」

この授業評価アンケートは、共通教育等科目の授業を担当している教員が、その授業内容・方法を改善することを目指して実施するものです。この授業評価アンケートの結果は、今後の教育改善を図る目的にのみ使われ、あなたの成績に影響を及ぼすことはありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。回答は選択肢からもっともあてはまる番号を1つ選んで、マークシート回答用紙の「回答マーク欄」の該当する数字を鉛筆（HB 又は B）でマークしてください。

I. 全体に関する質問

項目 A～G は全ての授業科目に共通した質問です。A～F については、全ての質問に回答してください。

A. 所属学部について

1. あなたの所属学部はどこですか。

選択肢： 1. 法文学部 2. 観光産業科学部 3. 教育学部 4. 理学部
5. 医学部 6. 工学部 7. 農学部 8. 科目等履修生

項目 B～F の質問にたいする回答の選択肢は下記の通りです。

(選択肢： 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらとも言えない 4. そう思う 5. 強くそう思う)

B. 学生自身の受講態度及び基礎知識について

2. この授業はもともと興味のある科目である。
3. 私のこの授業の出席率はよかった。
4. 私は、興味を持って積極的にこの授業に参加した。
5. この授業についての私の基礎知識（予習を含む）は十分であった。

C. シラバスについて

6. 授業はシラバス通りに進められた。
7. シラバスは受講決定や事前学習に役立った。

D. 授業方法について

8. 使用したテキストや補助教材は適切であった。
9. 教員の説明は分かりやすかった。
10. 教員は学生を積極的に授業に参加させていた。
11. 授業の開始・終了時間は適切であった。

E. 授業の内容について

12. 目的や趣旨がはっきりしていて、体系化された授業であった。
13. 教養や見識を養ううえで、あるいは、技能等を身につけるうえで、得るところの多い授業であった。
14. 学問に対する見方や考え方を深く学ぶことができた。
15. この授業についていけた。

F. 授業の総合評価について

16. 心に残る良い授業であった。
17. 「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった。
18. この授業を受けて、学問に対する興味が増した。
19. この授業を他の学生にも薦めたい。
20. シラバス等に記されている達成目標に私は到達できた。
21. 総合的に判断してこの授業に満足している。

G. 下記の事項について自由に答えてください。

22. この授業で特に良かった点、また印象に残った点があればマークシート「回答用紙」裏面の記述 A 欄に書いてください。
23. 施設・設備を含めて、この授業で改善すべき点があればマークシート「回答用紙」裏面の記述 B 欄に書いてください。

裏面へ続く

II. URGCC 学習教育目標に関する質問

H～Nについては、全ての質問に回答してください。

項目 H～N は、URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）の学習教育目標に関する質問です。質問に対する回答の選択肢は下記の通りです。

（選択肢：1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらとも言えない 4. そう思う 5. 強くそう思う）

H. 自律性

24. この授業を通して、以前に比べ、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになった。
25. この授業は、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになることを意図して構成されていた。

I. 社会性

26. この授業を通して、以前に比べ、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになった。
27. この授業は、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになることを意図して構成されていた。

J. 地域・国際性

28. この授業を通して、以前に比べ、地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができるようになった。
29. この授業は、地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができるようになることを意図して構成されていた。

K. コミュニケーション・スキル

30. この授業を通して、以前に比べ、言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになった。
31. この授業は、言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになることを意図して構成されていた。

L. 情報リテラシー

32. この授業を通して、以前に比べ、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになった。
33. この授業は、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになることを意図して構成されていた。

M. 問題解決力

34. この授業を通して、以前に比べ、批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになった。
35. この授業は、批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになることを意図して構成されていた。

N. 専門性

36. この授業を通して、以前に比べ、専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができるようになった。
37. この授業は、専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができるようになることを意図して構成されていた。